

## ■ 提 言 ■

## 2020年東京オリンピック・パラリンピックに備えて

森 雅 亮

東京医科歯科大学 生涯免疫難病学講座

いよいよ2年後の2020年、1964年以来56年ぶりとなる東京で4年に一度の祭典、オリンピック・パラリンピックが開催される。公式ホームページからの抜粋になるが、『全員が自己ベスト、多様性と調和、未来への継承』の3つが大会の基本コンセプトとして紹介されている (<https://tokyo2020.org/jp/games/vision/>)。オリンピックは7月24日(金)～8月9日(日)、パラリンピックは8月25日(火)～9月6日(日)の日程で予定されているので、東京近辺は真夏に日本内外からの観客やサポーターで、かなりの盛り上がりとは混雑が見込まれる。

その水面下で、現在、関係機関において多様な異文化への対応、ハード・ソフト両面での様々な取組みや準備が進められている。とりわけ、感染症対策分野では、様々な国からの訪日客が大きく増加することが予想されること、また、東京2020大会の競技会場等において、一定の場所・期間に多くの人が集まる機会が頻回に提供されることから、東京都だけでなく競技会場や事前キャンプ地等を持つ周辺県においても、感染症発生リスクが増加することが懸念されている。学会や行政ではその対応が急ピッチで進んでおり、とくに2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る救急・災害医療体制を検討する学術連合体というコンソーシアムが、日本救急医学会、日本外傷学会、

日本集中治療医学会、日本災害医学会、日本中毒学会、日本熱傷学会、日本臨床救急医学会、日本救急看護学会、東京都医師会、日本小児科学会、日本臨床スポーツ医学会、日本AED財団、日本蘇生学会、日本救護救急学会、日本航空医療学会、日本感染症学会、日本外科学会、日本環境感染症学会、日本整形外科学会、日本病院前救急診療医学会の20団体(2018年5月23日現在)で構成され、それぞれの学会が特徴を活かした活動を展開し始めている (<http://2020ac.com/>)。

本学会は、小児科学会からの要請を受け、小児科学会内予防接種感染対策委員会と協同して、小児における感染症・パンデミック対応における提言とマニュアル作りに従事することになった。また、感染症学会との連携を密にして、有事に対するガイドラインの作成も検討されている。それに加えて、大会期間前からリスクが高いと評価された感染症情報やその対策方法についての啓発を行うことが重要であり、こうした取組みは、民間企業や関係機関と連携する等、十分な情報提供や注意喚起となるような啓蒙活動が不可欠である。

この世紀の祭典が何事もなく「楽しい思い出」として、世界の人々の記憶に残るように、学会を挙げてその気運を盛り上げていくことが大切であろう。本学会員の皆さんのご賛同・ご協力を是非宜しくお願いいたします。